



【中間考査直前対策！～やる気が出る言葉シリーズ～】

先日の全校終礼では、中間考査を前に、スイッチを入れよう！ギアをあげよう！という趣旨でお話をしました。今回は、その第3弾です。全校終礼で取り上げたお話のキーワードも載せていますので、勉強に疲れたら、気分転換に読んでみてください。

コイの道はイバラの道 下関で生活する皆さんは、やっぱり、ソフトバンクファンが多いのでしょうか。それとも、偉大な北高の先輩が在籍する横浜DeNAベイスターズでしょうか。

昨年の25年ぶりの優勝で俄にファンになった人も多いようですが、私は、大のカープファンです。大学時代を広島で過ごしたこともあります。市民が支える球団であること。そして、今でこそ、かなり裕福になっていますが、かつては、何度も存続を危ぶまれた貧乏球団で、貧しい球団であるゆえに、練習量はプロ野球界一と言われるくらいに選手を鍛えるということ。そうやって鍛えた選手を、全部、他の球団にかっさらわれていくところが、これまた、泣かせます。

田中、菊池、丸のタナキクマルと言われる同級生トリオ。神ってる鈴木誠也。タイガースから復帰した新井さんに、男気“黒田さん”といえ、プロ野球に興味のない人でも一度は耳にしたことのある名前ではないでしょうか。そんな彼らが必ず通ったのが2軍という世界。いつの日か1軍のグラウンドで、スポットライトを浴びながらプレイをすることを夢見ながら、泥まみれになってボールを追っている。そして一度も1軍に上がることなく、静かにグラブを置く選手も多いとも聞きます。そんな2軍選手の宿泊所、広島の大野寮のロビーには次のような詩が掲げられているそうです

「 わらわれて わらわれて えらくなるのだよ しかられて しかられて かしこくなるのだよ たたかれて たたかれて つよくなるのだよ 」

高校時代は、プロ野球でいうならば、社会という1軍にデビューする前の2軍の時代です。鍛えられ、しかられて大きく成長する時代です。もうすぐ中間考査。君達は、この試験期間中に、どれだけ自分自身を追い込み、鍛えることができるのか。今しかできないことに全力を尽くしましょう。

前述の詩も最後をこう結んでいます。

「よのなかの えらいといわれたひとが いちどはとおったみちだよ」

イチロー選手名言集

(200安打達成時に) ◇メジャー記録 257本?勝手に期待してください。明日明後日に出来る記録ではないので、短期の目標をしっかりと立ててそれをクリアしていただくだけです。

(記録達成後次の目標はと聞かれ) ◇次のヒットです。

(結果とプロセスはどちらが大事かと聞かれ) ◇結果は大事。これなくしてこの世界では生きていけない。プロセス(過程)は野球選手としての自分ではなく、人間としての自分を作るために必要。従って優劣をつけられるものではない。

(満足できるときは?と聞かれ) ◇少なくとも誰かに勝ったときではない。自分が定めたものを達成したときです。

(少年たちに) ◇大切なのは、自分の持っているものを生かすこと。そう考えられるようになると、可能性が広がっていく。



先日の全校終礼でも紹介しました、歴史講演会で講師をお願いした樋口州男先生からの礼状を紹介します。樋口先生の母校に対する思いであったり、講演会でのみなさんのすばらしい「しぐさ」、何よりも、この簡潔な礼状の中には、皆さんがこれから生きていく上で、大切にしたい素晴らしいメッセージが含まれているように感じました。是非、この文章の中から、それらを読み取ってください。そうした感性を身につけてください。また、この礼状は、お手紙を書く際の基本的なマナーに則ったとても素敵な文面です。参考となると思いますよ。

拝復

五〇年ぶりの母校訪問から、早くも一〇日が過ぎようとしております。

その節は本当にお世話になりました。心より御礼申し上げます。またこのたびは、御丁寧なお手紙とともに山口新聞記事、学校通信などを御恵送いただき有難うございました。生徒諸君の講演会メモ・感想文を笑い声をあげたり、鋭い指摘に考え込んだりしながら拝読しております。

それにしても拙い話を真剣に聞き、メモをしっかりとって、自分の言葉で感想を書ける生徒が多いことに感じ入っております。素晴らしい後輩諸君に語りかける機会をいただいたことに、あらためて感謝いたします。

それにひきかえ、私の方は、これまで一般の人や大学生に話すよりも高校生対象の方が難しいと考えていただけに、思いがけない生徒諸君の反応を前に調子に乗り過ぎ、話が散漫となり、聞きづらくなつたのではと反省しているところです。

大型連休も終わり、校長先生には益々御多忙の日々をお過ごしのことゝ存じますが、くれぐれも御自愛のほど折念しております。

末筆ながら諸先生方、生徒の皆さんによりしくお伝え下さいますようお願いいたします。

敬具

五月八日

竹村和之校長先生

樋口州男